

壁面 14

2024.8.1
2024.8.19 revised
執筆発行/池田康

事件簿

探偵ごっこは
魂の足跡を追う
魂のアリバイを工作し
魂の寝室の鍵を盗み
魂の行方不明にあくがれ
魂の似顔絵を全国手配し
魂の暗号を解読し
魂の分裂を縫合し
魂の夢遊病につきそい
魂の手からピストルを奪い
魂の祈りを密かに録音し
魂の手紙を検閲し
魂のダンスを推理で伴奏し
魂の聖餐のおままごとのお相手
魂のハードボイルドをナイフとフォークで食す

迷宮

迷宮には犯人が隠れている
探偵が迷宮に入ってゆく
隠れているうちに犯人はミノタウロスになる
探しまわるうちに探偵はミノタウロスになる
ミノタウロスがミノタウロスを追いかけ
ミノタウロスがミノタウロスを殴り殺す
アリアドネにもミノタウロスの見分けはつかない
糸の長さも足りなくなった
ダイダロス宮はいまや全世界に広がり
出口はどこにもない

裁判

〈民〉が
〈神〉を
裁判にかけてと騒いでいる
弁護しきれぬ
弁護士は匙を投げ
汚名を着るのはごめん
判事は休暇をとって逃げ出す
所在なげに
手錠をもてあそぶ
永遠の被告

エドガー・アラン・ポー

エドガー・アラン・ポーは一八四九年にボルティモアで死んだ
という歴史記述が出鱈目であることは
探偵なら誰でも心得ている
ポーはまだ生きている
この禍々しい事実を隠すのに
百科事典は程よく平凡な隠れ蓑
ポーはどこにいるのか
それこそが最も重大なミステリーであり
もしかしたらポーはペーコンの絵の中で棺に閉じ込められて
現代の全貌を凝視し
恐怖の叫びを上げ続けている？
現代のあらゆる犯罪と恐怖
の源にポーはいて
青写真を監修している
動機の新発明に没頭している
ポーはどこにいる？
この疑問に取り憑かれた探偵は理性を失い
あらゆる形を暗号として受け取り
やみくもに解いて迷いさまよひ
あらゆる言葉と音をポーの声として聞こうとし
聞かなくていいことまで聞いてしまう
そしてとどのつまりは異様な確信を持つてこう言うのだ
ポーはどこにいる
自分の胸を叩いて ポーはどこにいる と
心でポーを崇拝しているということではない
単純明快
俺はポー
そう言いたいらしいのだ

石牢

ごつごつした花崗岩の床の上に巨石をくり抜いた碗状の室を置
くところどころに三寸径の穴があくのみで出入口はない 囚
人は眠った状態で床の上に置かれ その上に無数の声によって
吊された石の碗がかぶせられる 一旦設置された石室はなになが
あっても開くことはなく永遠の獄であり続ける
天井には蝙蝠の群れ 囚人が在位中に弾圧拷問し処刑抹殺した
人の数だけいて 囚人の食糧となるが 気を抜くと囚人の目を
襲い眼球をかじり 囚人の口にもぐり込んで舌を噛み切り 囚
人の腹を裂いて肝をちぎり 囚人の首にむらがつて血を吸い
囚人の夢に忍び込んで記憶の根を腐らせ 蝙蝠をなぐるうとす
る囚人の腕は空を切るばかり 蝙蝠は囚人の一秒前 一秒後の
時空を飛ぶ
囚人は死に値する という声は多い 万死に値する という声
は更に大多数を占める そのような執拗で熱狂的な殺意に対し
て石牢は囚人を守る と建前上義務づけられており 蠍の大軍
の衛兵が常駐し 石室に近づこうとする暗殺者を威嚇する し
かし蠍はまた暇つぶしに 日に何度も囚人を刺して遊ぶ
心配無用 囚人の魂は救済される 在位中に弾圧拷問し処刑抹
殺したすべての人の名をみごと十二音綴の十四行詩にうたい取
めたならば必ずや救済される と蝙蝠は教える 蝙蝠は教える
蝙蝠は教える永遠の業苦として教える

殺意

ぼくの殺意がぶらりと出ていって
一人ではつつき歩き
いろいろ事件が発生して
パトカーが走り回り
テレビが騒ぎ立て
清く正しい世間が動揺するなか
しれつと
すました顔で帰ってきた
血まみれの殺意を心の隠しポケットにしまう

Dagger

だが
あいつをどうしてやろうか
殺す？
だがピストルがない
素手で戦っては負けてしまう
だが
だががある
だがは恐ろしい凶器
だがを右手に握って近づいていく自分を想像する
殺害は逆接の行為
だが
だがを突き刺してもあいつは平気だ
たかだがで死ぬ者はいない
だが
急所に刺せばどうだ
相当に痛いだろう
なにせだがは
刃向かう刃なのだ
だがの刃は
この世の裏側を覗く
だがしかし
駄我 死仮死 死加死 死過死 死架死……
だがは相棒しかしとともに
あらゆる革命的犯罪を志す

5465

2944

8211

2944

5465

8211

2944

4587

2944